

# 試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名:パセリ「USパラマウント」地元選抜系統の採種方法			
[要約]パセリの採種では、採種株の移植を避け、1次側枝は過繁茂を防止するため10～15本に制限し、2次側枝以降は放任とする。採種の対象は1、2、3次側枝先端に付く花傘までとする。			
キーワード(専門区分) 育種 (研究対象) 野菜類ーパセリ (フリーキーワード) パセリ USパラマウント 採種 発芽率			
実施機関名 (主査)農業総合研究センター 暖地園芸研究所 野菜・メロン研究室 (協力機関) (実施期間)1997年度～2001年度			

## [目的及び背景]

安房地域のパセリ採種組合では、「USパラマウント」地元選抜系統の採種を行っているが、採種方法は各生産者に任されている。そこで、より発芽勢、発芽率の高い、良質な種子を生産するため、その側枝、花傘の制限が、種子の収穫量、品質に及ぼす影響を明らかにする。

## [成果内容]

1. 採種株を移植したり、株当たりの花傘数を制限すると採種量は減少した(表1)。
2. 採種量は、2次以降の側枝を放任することで3、4次側枝を中心に大幅に増加した(表2)。
3. 側枝を放任とすることで、得られた種子は発芽率、発芽勢が良好となるが、1～3次側枝に比べ4次側枝から得られた種子ではやや劣った(表3)。

## [留意事項]

1. 採種株を余儀なく移植する場合には、活着までの生育停滞が採種量に影響するので、遮光、灌水等により活着の促進に努める。
2. 過度の摘葉は、採種量が減少するため、摘葉は下葉のみとする。
3. うどんこ病等の発生により葉が傷むと、摘葉と同様に採種量の減少が懸念されるので、予防に努める。

[普及対象地域]安房

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 採種株の移植の有無及び花傘数と採種種子重

試験区		実花傘数 (個/株)	採種種子重 (g/株)
移植	花傘数		
有	20	20.2	4.10
有	40	37.7	6.20
有	放任	279.8	16.65
無	20	20.4	4.95
無	40	39.8	8.34
無	放任	763.1	47.88

表2 採種側枝の制限の有無と採種種子重

側枝 処理	調査株数	採種種子重 (g/株)				合計
		1次側枝	2次側枝	3次側枝	4次側枝	
制限区	11	2.73	1.06	-	-	3.79
放任区	10	1.54	1.40	22.82	15.83	41.59

注：1次側枝は、全株10本に調製した上で調査した

表3 採種側枝の制限の有無、採種部位と発芽率

側枝 処理	採種部位	種子重 (g/100粒)	発芽率(%)		
			14日後	21日後	30日後
制限区	1次側枝	0.430	19.7	58.9	64.6
		0.496	14.4	47.6	59.7
	2次側枝	0.393	22.1	51.9	55.3
		0.485	17.1	68.2	77.6
放任区	1次側枝	0.332	79.0	83.3	84.0
		0.412	75.8	84.5	85.3
	2次側枝	0.327	80.3	87.9	88.2
		0.360	73.0	84.9	85.1
	3次側枝	0.299	69.5	91.4	91.8
		0.375	63.5	88.6	90.4
	4次側枝	0.325	61.0	73.4	74.6
		0.365	36.5	59.5	60.8

注：発芽率は、23℃定温条件(常時蛍光灯点灯)に置き調査

[発表及び関連文献]

平成9、11年度野菜試験研究成績概要集(公立)関東東海(I)野菜茶業研究所